



NPO 法人
リタイアメント情報センター
Retirement & Information Center



Re live Journal



“りらいぶ” ジャーナル No.38

2021年 早春号 (2月20日発行)

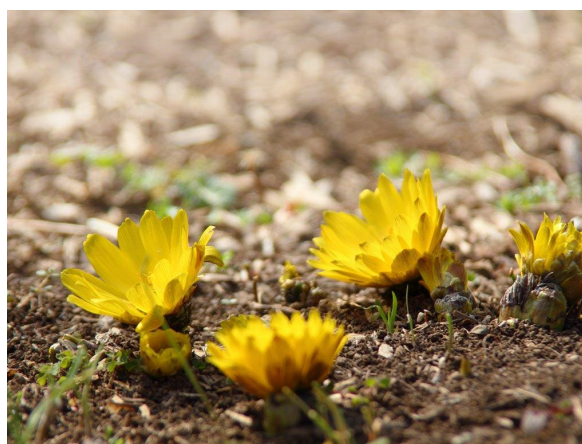
< “りらいぶ” 憲章 >

- 組織、肩書き、経歴にとらわれない自由な生き方
- 知識、経験、技術を生かして社会に貢献する生き方
- 初心に帰って新しい自分を発見する生き方

私たちNPO法人リタイアメント情報センターはこのような生き方を“りらいぶ”と呼び、その生き方をサポートします

< 目次 >

- | | |
|------------------------------|---------------------|
| 1. コロナ下での宮古島滞在 (楽しい人生を求めて) | (R&I 顧問 渡嶋 八洲夫) |
| 2. エッセイ 120%幸せだった人生 ~ 青春の一コマ | (会員 ヤスコWild(杉山 泰子)) |
| 3. 馬が動かない | (会員 鳥居 雄司) |
| 4. 生き延びる為 私を取ったチョイス | (会員 赤神 潔) |





1. コロナ下での宮古島滞在 (楽しい人生を求めて)

元キャメロン会 会長
R&I 顧問・会員 渡嶋八洲夫

昨年秋には緊急事態宣言が解除になったが、GoTo トラベルが適用されるか否かは不明確であった。

昨年2月以降旅行の自粛が叫ばれてきたが、秋には状況が多少変わったと判断、急遽沖縄旅行を思い立った。沖縄の何処にするか考えていたところ、たまたま宮古島の宣伝が目にとまったので宮古島に決めた。



伊良部大橋

航空機は JAL のマイレージサービスを受けることにし JTA の直行便と決まった。

JTA 日本トランスオーシャン航空は 1967 年南西航空として発足沖縄地域の路線を飛んでいたが現在では羽田、関西、中部等を結んでいる。JTA 便は往復とも朝早く、夜遅い便だったので出発前日と帰国日は羽田に泊まらざるを得なかった。

旅行日は 2020 年 11 月 18 日 25 日と決めた。ホテルはインターネットで調査しただけで決めたが結果は満足であった。

コロナ下現地で果たして歓迎されるか心配したが現地では暖かく迎えて貰った。空港、ホテル共多くの観光客で混んでおり「コロナどこ吹く風」という感じでほっとした。往復の航空便も満席だった。

1. ホテル フリーズ ベイマリーナ



ホテル フリーズベイマリーナ

ホテルは海辺の目の前、近くに繁華街もなく比較的閑静な場所、只々のんびりとした時間を過ごしたかったので打って付けだった。



ホテルロビー



ホテルプールサイド

レストランは {ぽるとふい (ビュッフェ)、汐彩 (和食)} の 2 ケ所が利用できたが、朝食にはビュッフェを利用したが和食レストランは気が付かなかった。

部屋はツインルーム (31 m²)、海の眺めが良からうとタワービル上層 10 階にした。宿泊料金は 1 部屋当たり 9 泊で 25 万円

(朝食別) であったが、現地で GoTo トラベルの適用になっていると聞き、9 万円の宿泊費支援と 4 万円のクーポンを受けることが出来、GoTo トラベルのありがたさを実感した。



バルコニーがあり海を眺めるのに最適だった。近くにパン屋とフードコートがあり便利であった。

2. 食事

- ① 朝はホテルのビュッフェスタイルにした。コロナ対策のためマスクを着用、アルコールで手を洗い、検温を受け、ビニール手袋をはめて料理を取る、コロナ対策は十分だった。席も密にならぬようテーブルが配置されていた。「食事中である」の札を置いて席を立ち、勿論マスクを外しての会話は禁止。
- ② ヒルは隣接した瀟洒なたたすまいのベーカリー&カフェ南風で採ることが多かった。種類も多く美味しく、よくテイクアウトした。



- ③ 夕食は近くのすし屋かフードコートで採るか、10軒ほどの近くのホテルで取るかにした。循環バスが各ホテルを結んでおり無料で利用できる。各ホテルはイタリアン、和食、中華、しゃぶしゃぶ等に専門化されており色々な種類の食事が楽しめる。フードコート以外は予約が必要であるがフロントで予約してくれた。近くのすし屋、フードコート、ホテルのビュッフェそれとバスに乗っての他のホテルのしゃぶしゃぶ、寿司、蕎麦屋で採ったが何処のレストランも瀟洒で美味しかった。

3. 観光

- ① 近くに循環バスで行けるシギラ黄金温泉があり賑わっていた。浴槽の他に温泉プール

があり数回利用した。ホテルで割引券をくれた。

- ② ホテル近くのドイツ村はテーマパークでドイツの香りが楽しめるとのことであったが訪れる機会を失した。



- ③ 半潜式水中観光船に乗った。ガイドが美しいサンゴ礁や熱帯魚を案内する、亀もみられた、船底のガラス越しに鑑賞する。乗船場所はホテルから歩いて10分のところ。乗船料金2,000円。





- ④ 近くには多数の美しい浜（前浜ビーチ、砂山ビーチ等）が見られるビーチを訪ねるのも楽しい。
- ⑤ 美しい伊良部大橋は宮古島と伊良部島を結ぶ全長 3,540m で全国一の長い無料橋である。
- ⑥ ボートに乗って適正な場所で水中に入りシュノーケリングで魚等が鑑賞できるが自信なくやめた。

4. 美しい景色

ホテルの部屋からは美しい海が望め堪能した。我々が乗った半潜水式水中観光船の航路もはっきりと追跡できた。

美しい砂浜と長い伊良部大橋のコントラストは素晴らしい。

近くのケーブルで丘まで登ると眼下に広がる街並み、海辺、ゴルフ場の眺めも素晴らしかった。

5. 雑感

- ① ホテルの庭のプールサイドでデッキチェアに寝そべり日光浴をしながらゆっくり過ごしたことは至福の時間であった。
- ② 出発前まではコロナ時の今、訪問することは如何と心配していたが、コロナについては現地の人からは話は出なかった、緊急事態宣言がない今（11 月末）は客も増えありがたいと現地の人で話でホッとした。
- ③ 土産をホテル隣接の店で買ったら 1 万円以上買ったので宅急便無料で送ってくれ助かった。
- ④ 羽田のビジネスホテルに宿泊したが当日有効のクーポン券 1,000 をくれた、これまた GoTo トラベルの恩恵らしい。
- ⑤ ホテルでは毎日複数の旅行社の団体旅行グループで朝食時には混雑していた。3 泊 4 日と短いツアーが多いようだ。
- ⑥ JTA でなければ日中の良い便もあると思うが直行はどうだろう。

- ⑦ 宮古島は近場であり冬のロングステイも考えて良さそうだ。気候的には 11 月が最適、平均気温 23℃、雨も少なく台風もない。

2. エッセイ

120%幸せだった人生
～ 青春の一コマ

2020 年 11 月 1 日

ヤスコ Wild
NPO 法人関西ジャンソン協会理事長
会員 杉山 泰子

高校時代の数学の恩師長瀬英介先生がお亡くなりになった時、お葬式でご家族の方が、「父は、120%幸せな人生だった、と言って亡くなりました」とおっしゃっていました。

この言葉は印象的で、十年以上経った今でも思い起こすことがあります。

先生は、本当に素晴らしい人生を全うなさり、最後にみんなにそう言い残して旅立たれたのです。

残された者は、あれをしてあげたらよかったとか、いろいろ心残りや後悔があるものですが、120%満足して旅立たれたと思えば、あまり悔やむことが無く気持ちよく送り出すことができます。最後まで、優しくすがすがしく生きられました。

長瀬先生は数学者なのに詩を書かれたり、作曲なさったり、歌ったりなさいました。

これは先生が書かれた詩の一遍です。タイトルは「今は旅人」でしたでしょうか。

人生という祭の輪の中に

紛れ込んでしまっているけれど

鎮守の森の木立の中に

こころ 静かに しずかに預けて

樟の木の太い幹の月日の

長いながい孤独を想い

背中をじっと当てて もたれている



樟の木の堅い幹の中を
かすかに流れる水の音が
僕の背中にそっと響いている
目の前で躍る人たちを
今は静かに見ているだけの僕は旅人です

イーゼル立てて キャンパスに向かう
今日を嘆かず 明日に憂いを持たず
昨日見てきた堤の桜の
淡い花を描こうとおもうのに
あの人の不思議に澄んだ深いまなざしに
耐えられず
僕の思うように描けない
あの人の不思議に澄んだ青い瞳の中で
桜の花が
まぶしく白く揺れている
若い日の理想と憧れを
明日も夢見て
また新しい旅を続けるだろう

忘れもしない、地元の高校に入学した時の最初の授業が長瀬先生の数学でした。

先生は、読めばわかるとおっしゃっていきなり十数ページを飛ばされました。

そこで気付いたのです、ここは私のようなアホが来る学校ではないのだ、ということに。

それが私の高校生活の始まりです。

それから先生は淡々と数学の授業をなさっていましたが、今になって思えばあれは数字の計算のことではなくて、宇宙の真理について話されていたのではないかと思います。

それなら私も興味を持って授業について行けたかもしれませんが、今ごろ気付いてももう遅すぎます。

思えば私の人生は気付いた時は 10 年遅いの連続です。この場合は 55 年遅い。

数学の授業ばかりでなく、古文や歴史の授業などさっぱり頭に入らないで、窓から見える流れゆく雲にばかり心を奪われていました。

けれど、どの先生も私に注意をしなく、好きに窓の外ばかり眺めさせてくれました。諦めていたのかもしれませんが、どの先生もなぜか温かった記憶があります。

哲学者のような社会科の先生、お昼休みの時運動場のコンクリートの階段に座っていると、その先生がいらして私の横に座りベトナム戦争のことをお話になりました。

ベトナムの人々がとてもひどい目にあっているのだよ、とおっしゃって遠くを見つめられましたのですが、その眼には涙がうっすらと浮かんでいました。渡辺先生とおっしゃったかしら？お名前も確かではありませんが、あの当時、あの先生は 30 歳代だったのでしょうか。風の噂で若くして亡くなられたと聞きました。

高校を卒業してから、英語の検定試験を受けに行ったことがあります。

二級を受けたのですが、その時の面接の担当の先生が偶然にも高校で英語を教えて下さっていた上田先生でした。

私は普段の不勉強を恥じて小さくなっていたのですが、「あなたは私の教え子ですね」と笑顔でおっしゃったのでほっとしました。ラッキーなことにその試験に合格することができたのは上田先生のおかげです。

上田先生はいつもイギリス紳士のようにおしゃれで、仕立ての良い、三つボタンのベスト付きのスーツ姿で、手入れの行き届いたピカピカの靴を履いていらっしゃいました。

一年生の時の担任の先生は藤井房子先生で、家庭科の先生でした。

「あなたたちは、大きくなって決して目の上に青い色のものを付けるような女性になってはいけませんよ」と何度もおっしゃっていたのですが、私は歌手になって、本当の顔がどんな顔なのかわからないくらい厚化粧をするという職業を選んでしまいました。



いつも、藤井先生ごめんなさい、許してください、こんな顔の女になりました、と心の中でお詫びを言いながら、アイシャドーやつけまつげをつけていたものです。

もしあの頃そこに藤井先生がいらしたならば「仕方がないわね、それならそれでがんばりなさいよ」と言ってくださったと思います。

二年生、三年生の担任の先生は井坂賢一郎先生でした。

井坂先生は昔の武士のような風格、威厳があり何事にも動じない大きさと優しさをお持ちの先生でした。

井坂先生は古文の先生で剣道 7 段でした。私の父も剣道 5 段で、病気がちな母に変わり懇談会などに出てくれていたので、父は剣道を通じて先生と親しくお話をさせていただいたようです。懇談会の席では私の品行や成績の話ではなく、剣道の話をしていただろうと思います。

そんな流れで、私が高校を卒業してから、先生は父が開業していた杉山医院に血圧のお薬をバイクに乗って刀根山より庄内まで取りにいらしていた時期がありました。

そのころ大学生だった私は、夜は父の仕事を手伝っていて患者さんの赤ちゃんのお守りなどをしていました。赤ちゃんを抱いた私を見て、井坂先生は私が結婚をして赤ちゃんを産んだと思われたようで、「私の子供ではありません」と言いましたら、一瞬残念そうな顔をなさいましたが、納得したように笑っていらっしゃいました。

そんな風に高校時代は卒業と共に少しずつ遠ざかってゆくものと思っていたのですが、或る日驚きの出来事が起こりました。

私は 27 歳の時からシャンソンを始め、31 歳で歌手活動を開始し 36 歳から地域の公民館などでシャンソンの講師として働き始めていました。39 歳の時、私の受け持っている教室の一つ「ラ・セーヌ」になんと長瀬英介先生が生徒として入ってこられたのです。

私は恐縮して困ってしまったのですが、長瀬先生は昔と同様ひょうひょうとなさっていて、

好きな歌を好きなように楽しそうに歌われていました。

詩を作ったり作曲をしたりなさっていましたが、先生の心の中には表現しきれないほどの豊かな経験と感性がおりだったと思います。

その時に冒頭に書かせていただいた詩も見せていただいたのです。

また、先生の書かれた詩に「防人の歌」という作品があります。この原稿を書くにあたって防人の歌を探したのですが、見つかりません。

この曲は先生の体験から書かれたものだと思いますが、私は先生はシベリアに出兵なさっていたのだと思いました。けれどシベリアにいらしたのですか？と直接伺い確かめることはできませんでした。

シベリアに出兵していた兵隊さんたちがどんな辛い思いをなさったのか耳にはしていたので、実際どんな恐ろしいことが起きていたのか向き合う勇気がなかったのです。

「防人の歌」は、草原に伏せて敵を待ち受けているときの、空に浮かぶ星や浮雲などの夕空の美しさを描いた詩でした。

先生はこの詩と曲に丁寧に手を入れて書き直され、何度も歌っていらっしゃいました。

先生が 120% 幸せな人生だったと言っただけなのは、ラッキー続きの人生だったということではなくて、ものすごく辛いこと、苦しいこと、悲しいことを乗り越えてついに 120% の幸せな気持ちを獲得するという境地に達することができたということなのでしょう。

そういい残されてこの世から去られたのは、あるいはもっと深い意味があるのかもしれませんが、私は今でも考え続けています。

自分がこの世を去る時には、少しでもこの境地に近づきたいものです。

それにしても、昔のことはよく覚えていて、昨日のことはなかなか思い出せない年齢になりました。



3. 馬が動かない

会員 鳥居 雄司

9月、気温 13 度、小雨で

今回の大会は 6 月下旬です。東京は梅雨真っ盛りですが、北海道は梅雨がないと言われています。この時季に北海道に来ると爽やかで青空が見えて素晴らしい天候に恵まれると以前からずっと考えていました。ところが来てみると期待とは違って、雨の日もあれば嵐かと思われるような日もあり、安定して良い気候が続くというわけではありません。確かに梅雨前線は北海道よりずっと南に停滞していますから、前線の影響はありません。しかし日によって随分天候が違います。気温が東京の 3 月頃と思われたり、高い時は 8 月の真夏ではないかと思われたりします。ですから北海道に来る準備として、初春から真夏までの衣類と晴天、雨天の組み合わせを考えながら支度をします。

出発の前に

前日から雨がしっかり降り、出発時は小雨程度におさまっていました。天気予報では雨があがるということで、第一区間 30 km を走り終える前に、曇りまたは晴れを期待できます。仮に晴れて温度が上がっても最初の 30 km は 2 時間 15 分で走れ、遅れたとしても 3 時間と考えました。問題は、出発する時に雨具をつけるか雨具なしにするかです。今の雨具は雨を弾いて汗は蒸発できるように作られていますが、雨具を着て騎乗していると気温は低くても体温は相当上がってきます。余分な汗をかくと減った水分を補給する必要があります。大汗は熱中症の恐れもあります。コースの途中で暑くなり、雨具を脱げるのは馬の水分補給をするウォーターポイントです。ただ第一区間で馬が水を飲むために止まることはほとんどありません。馬の顔を水に向けても飲もうとしないことがほとんどです。そうすると雨具を脱ぐ機会を作れないまま第一区間を終えそうなので、私は雨具をつけずに小雨の中を出発することにしました。

コースの様子が

舗装されていない道は相当にぬかっているのに、馬が足をとられたり、蹄鉄が脱げたりしないように気をつけます。スタート直後、馬は興奮して先へ先へと走りたがります。今回は第一区間の走行時間を 2 時間 15 分に予定しました。これは 80km の第一区間として、私が多く想定する所要時間です。しかし、今回は前日に降り続いた雨でぬかっているところが多くありそうです。乾燥している場合と違い、蹄が深くもぐるので馬に負担がかかります。競馬で言う重馬場です。また、ぬかった道は蹄鉄が外れやすい傾向があります。エンデュランスでは色々な路面を走ります。ぬかった田んぼのような所、砂利道、草地、岩がゴロゴロしている川沿いの道、そしてアスファルトの舗装路も多少走ります。ですから蹄鉄が外れるとその後の走行に大きく影響します。これまで、同じ馬で前足の蹄鉄を外したことがあるので、体の重心を後ろ気味にして走ることにしました。

全日本エンデュランス馬術大会2018

ステージ 2

走行距離 30.6km

9月23日(日)
● 120km 競技 27チーム
● 80km 競技 17チーム
● 60km 競技 17チーム



第一区間は

エンデュランス（距離）競技では、制限時間をもうけて、それを過ぎると競技を続けられない規則があります。80km では第 2 区間のゴール時



刻と第3区間のゴール時刻が決められ、カットオフタイム（走行制限時間）と言います。

第一区間は大会会場から西の川へ向かい、突き当たって下流に走ります。折り返し地点で橋をわたり、今度は川から離れて山に入ります。最初の上が砂利道で勾配がきつく、これを乗り切れるとホッと、さらに上りつめて最も高いところが水道を供給する給水場です。そこから林の中を次第に下りながら川に戻ります。川沿いをしばらく登るのですが、この道は岩がごろごろしていたり、林の中の細い道を右に左に曲がったりしながら川と離れずに上流に向かいます。制限時間のことを考えて、せめて速歩で通り抜けるよう頑張ります。しばらくして川から自衛隊の演習場の丘を登ります。ここは林の木立、草原、ぬかるみなどです。丘の上に着くと川に向けて下ります。川を渡り、出発地点に戻ります。2時間15分で30kmを走る予定でしたが予定より25分遅れて2時間40分かかりました。獣医検査の結果は13項目のうち12項目がA評価で馬の状態が良いことを確認できました。強制休止の40分間を経て、11時34分に第二区間を出発しました。

時間を稼げない

第二区間は2時間15分で走ることにしました。第一区間で25分余分にかかっていますが、馬の健康状態は非常に良く少しでも時間を短くしたいと考えました。しかし、路面の状態は悪く、馬が足を取られたり、前足をつまずくことがあったりで思うように時間を縮めるような走行をできません。そうこうしているうちに第二区間終了時のカットオフタイムが近づいてきます。11時40分これが第二区間到着のカットオフタイムです。予想では大きく時間を稼げるつもりでしたが、5頭の馬は疲れているわけではないのに走ろうと言う気迫に乏しいです。競馬で、第四コーナーを回ると鞭を入れて気合を入れます。また馬場競技だと拍車をかけます。しかしエンデュランス競技では鞭、拍車どちらも使えません。ですから馬が嫌になるほど蹴る、声をかけるくらいができる全です。動きの悪い状態の中で11時34分にゴールしました。カットオフタイムは11時40分ですから、なんとかギリギリ持ちこたえたことになります。休む間もなく獣医検査に臨み、馬の状態は全く悪くないことを確認できました。いよ

いよ最後の第3区間です。

残念ながら

12時18分に第三区間を出発しました。ゴールのカットオフタイムは14時40分です。2時間20分で20kmを走れば制限時刻を超えることはありません。出発して1kmほど進んで1頭が遅れだし、一緒についていけないとのことで離れました。さらに出発から3kmほど走った時に2頭の動きが止まり、棄権しました。

1頭が遅れ2頭が棄権し、残った2頭で第三区間を走りました。2頭とも動きが悪く、思うような速さで進むことはできませんでした。途中の分岐点で指示の看板を十分に確認せず、間違った道を進み、1kmほど走って道を間違えたことに気づき分岐点まで戻りました。山に入りしばらく進むと馬は全く動かない状態になりました。ブーツで蹴っても馬の反応がなくなり、下馬して手綱を引いて歩きました。そして川に出る途中で14時40分をまわりカットオフタイムを超過しました。最後の獣医検査を受けると馬の健康状態は良く、その力を発揮させることなく失格しました。



思い返してみると

第一区間から、馬の走りは緩慢な状態でした。馬にしてみると大会で競争をしているというより、観光客を乗せ、遊覧乗馬をしているような気分になっていた気がします。馬の前進氣勢の高揚を保つ騎乗の必要を感じました。あわせて、鞭も拍車もない中で、無理矢理にでも馬を動かす方法を身につけるのも必須と痛感しました。



4. 生き延びる為 私の取ったチョイス

会員 赤神 潔

最近、世界中で、Black, Indigenous, and People of colour (BIPOC) へのシステムミックレイシズム（又は、インスティテュショナルディスクリミネーション）が問題になっている。

一般的に、見た目は、全く white でも black とのミックスは black とみなされ、indigenous (Canadian or American Indian) とのミックスは indigenous とみなされるらしい。

本人は知らなくても当然だが多くの旧い日本人の DNA には、アイヌ（又は、琉球人）の DNA が入っている。

又、アイヌ（又は琉球人）の DNA の割合（％）に基準を設けて日本人とアイヌを分けて定義する事は人道上絶対不適切である。

日本政府が国連の意向に沿いアイヌを先住民 (Indigenous) と指定した以上、我々日本人は Indigenous に属すのではと思われる。

日本人の歴史（約 800 世代）は新大陸の比較的近年の移民で出来た国々の人々（約 33 世代）とは大違いで、2 万年以上前の石器時代と非常に古く、当時の日本（列島）住民は、アイヌ（又は琉球人）で、狩猟採取生活をしていた。以後、多民族との融合発展集合民族に進化したと私は思う。

縄文人もアイヌとのミックスで約 16000 年前、日本が大陸から離れて、島国となった頃から現れ、弥生人でさえ、約 3000 年前、中国、東南アジアからやってきた東洋人と日本列島民とのミックスが主流と思える。その上、新大陸諸国とは違い比較的小さな列島国、鎖国と言うユニークな条件が重なり合い、尚且つ、民族を文化的、精神的によりユニファイする、2 度の蒙古襲来、世界大戦を 2 回も経験している。DNA 的には余り変異は起こって無いかもしれないが、単一（文化的、民族間結婚）民族化が幾世代もすすんでいる。しかし、残念ながら純粋な日本人種にはどうもがいても到達出来ない。それで良いのだ。所謂、オーガニズムの雑種は強くて、優れていて、それで、良いのだ。

所で、私の family tree は 20,000 年程前の石器時代に日本に住み着いた狩猟採取民族アイヌの settlers の 1 人から始まり、今から 900 年程前の皇族から出た初代征夷大将軍源頼朝や平清盛、多くの公家、武将と同じ haplogroup D-Z1504 で、言わば、代表的又は平均的又は一般的な旧い日本人に属すらしい。

この haplogroup D-Z1504 は男性の Y 染色体上の遺伝子で決まり、私の Y 染色体の場合、約 2 万年前の父から切れ目なく息子の方にパイオロジカル相続され続けているらしい。

1972 年に家族 4 人で北米に渡り、自由で平等、人権尊重と評判の高いカナダで、途中まで、それ程差別に気づかなかった。

バンクーバーの郊外に 40 エーカーの農地を銀行融資で買い、ミンク飼育事業も北ヨーロッパや北米の白人ランチャー達の中で孤軍奮闘、業績もなんとか上手く行った。初めからはじめた大掛かりな異種交配が大成功。シアトルのオークションでヨーロッパ、米国、カナダの白人生産者達を抜き、トップに躍り出た唯一人の東洋人生産者となった。その時オークションの傍聴者の混雑中に居合わせて、私に負けて興奮した若い白人生産者に「ジャップ!」「ジャップ!」と叫ばれ、睨まれて、初めて、「えー〜?」「そんな事ありか?」と複雑な気持ちになった。

その数年後、隣の 36 エーカーにゴルフコース開発計画が持ち上がり、計らずも経験した明記すべき例（システムミックレイシズム?）を紹介します。

カナダの市民権取得のため申請書を市民権裁判所へ出しに行った時の事、受け付けた中年の白人女性がチラッと私を見るなり、眉にシワを寄せ、何も言わず、私の申請書の名前をジェームス赤神から、勝手にジム赤神と書き直した。当時の規則では、パスポートに通称名を登録出来る事になっていたと記憶している。（世話になったアナウンサーのウィルソン家にも、子供達の中にジェームスと言うインディアンの子供がいた。）

カナダに来て以来、20 年程もそれ通っているのに、私の差し出した参考資料の、ジェームス赤神となっているモントリオール銀行やロイヤル銀行の印刷された小切手も、サリークレディッ



トユニオンの定期預金書類等も、一瞥で無視された。彼女は、「ジムが良く、ふさわしい。」と断言した。

そこにいた役人の女性が、私の申請書を一瞥して、『お前は、その名前にふさわしく無い。』『ジムが適当だ。』と決めつけたのである。数秒の挨拶以外は、何も会話はなかったし、私の来ることは彼女には絶対予め解らなかった筈である。

（回顧すると、ひょっとして、私のロータリアンの白人弁護士から彼女に通報があったのかもしれない。又は、その弁護士から市の公聴会で、100人弱の白人傍聴者の前で私に論破され、隣のゴルフ開発計画が『拒否』されたラングレー市の白人市長兼議長を通して、彼女に予め私が来る事の通報があったのかも知れない？）

それは『私がカナダの少数民族になろう』とした瞬間であった。多数民族に統治され、判決を下され、レッテルを貼られ、名前をつけられ、価値評価され、疑われて、生きねばならぬ。彼女の網膜に映った映像が引き金になって、彼女の脳裏に戦慄を起こした事は間違いない。彼女の脳細胞は映像を感知しただけでは無い、それに拒否反応する素地がそこにあったのだ。しかし、彼女の個人的な嗜好を私に押し付ける職権が、この国には許されているのだろうか？ 私の容姿は、彼女の網膜に相当悪く映ったに違いない。あれ程自信たっぷり、威厳があったではないか。人間として、今まで、こんな風に感じたことが無かった。殆ど単一民族の日本で生まれ、育ち、フリースピリットを持って生きて来た。自分で考え、判断し、選択して生きて来た。官憲から、『お前の名前には、これがふさわしい。』といわれることは、カナダ人になる為の、避けては通れない当然の代償なのかも知れない。

ワイフや子供達にはどう言えば良いのか？
日本の友達にどう説明すべきなのだろう？
説明を聞いた彼らは、如何いう気持ちになるだろう？

非常に高圧的で、冷ややかに、奴隷でもみるように、人を見下した、失望させられ、当惑させられる態度であった。

今思うと、此处で腹を立てて、私が少しでも声を高めると（yelling）、全てはおしまいであったと思う。血を吐く程の家族の努力も。オークションで世界1の最高値を出した我々の種ミンクも。先方は密かにその合法的機会を待っていたのだ。申請は受理されず、申請書（証拠）はその場で反故となり、紙屑籠へ捨てられて、無かったこととなり、我々は日本国籍のまま財産強制没収販売、国外追放となったであろう。

英国の植民地インドの指導者ガンディーの経験による知恵の様に私が無抵抗、無反応だったのが、本当に良かった！ カナダもインドと同じく、英国のコモンウェルスだ。

今まで感じたことのない、人に管理される確実な圧力を感じはじめた。『これがカナダなのだ。』『これが全ての移民の通る関門で、彼女は丁度、腹の虫のいどころが良くなかった変人の門番なのだろう。』と思うしかない。
『しかし、ジム。何と言う名だ。』

とにかく、20年間も市民権を取らずにいたのに、弁護士に周りの市民権保持者から『市民権を直ぐ取らないと、農地（仕事）家屋を取り上げられ、国外追放される』と脅迫されて、市民権を取らされたのだ。

もし、初めから、日本国が近代国家として自国民を見捨てず、信じ、保護し続け、外国への命を賭けた挑戦を重ね、重国籍を認めていて、我々が気軽に重国籍保持者になれていたなら、カナディアン、アメリカ人も我々を法的に同等の近代的国際市民と見なし、我々に対する態度も差別も随分変わっていただろう。ビジネスも順風だっただろう。

ラングレー市の公聴会の夜、私に「拒否」されたゴルフコース開発計画の中核白人不動産屋が、死ななくても良かったのだ。

発行：特定非営利活動法人 リタイアメント情報センター（R&I）

〒100-0011 東京都千代田区内幸町 2-2-3 日比谷国際ビル 18階 ヴィップシステム(株) 内

●TEL 03-5860-9483 FAX 03-5860-9477

●事務局 TEL 080-9982-6237

●事務局 E-mail: haruo_shimamura@hotmail.com HP: <http://retire-info.org/>

（発行責任者）事務局 島村 晴雄